２.「総合的な探究の時間」教科等研究会の取組について

（令和３年度の取組）

昨年度末に大まかな計画を立てたものの、本年度も新型コロナウイルスの感染拡大にともなう影響を受け、総会の書面表決や学習指導研究会及び学習研究発表会はともにオンラインとなり、その計画は変更を余儀なくされた。以下にその概要を記す。

① 本年度の会員登録

４月１日付けで県内すべての高等学校及び中等教育学校、特別支援学校に会員登録のお願いをし、４６校、８５名の先生方の会員登録をいただいた。

② 幹事会及び総会

当初は５月中に実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、本年度はメールを使って連絡を取り合う形での実施となった。総会については県内の他の教科等研究会においても一会場に集まっての実施はほとんどなかったため、本会においても書面表決の形をとることとした。６月２２日に案内文書と資料を各校に発出し、７月２日までに賛否投票や意見の入力をオンライン（Google Form）で実施し、前年度の活動報告、本年度の役員並びに幹事（案）、本年度の事業計画について承認をいただいた。会長には二階堂高等学校の上地英彰校長に就任していただき、事務局は昨年度に引き続き、畝傍高等学校（以下、本校と記す）におくこととなった。事業については、２学期（１１月中頃）に本校において学習指導研修会を、３学期（１月末）に教育研究所にて学習研究発表会を実施することとした。

③ 学習指導研究会（11 月 15 日（月））

当初の予定では本校に各校の教員が集合して、授業参観及び研究発表と研究協議を実施する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から本年度もオンラインでの開催となった。授業等の発表の様子を事前にビデオ収録し、その映像も含めた形で、(1)本校の「総合的な探究の時間」に関わる取組についてと、(2)「総合的な探究の時間～課題研究」（２年生全員が履修。以下、「課題研究」と記す）及び「課題研究α」（アドバンストコース生徒が履修。以下、「課題研究α」と記す）の取組についての発表を行った。

(1) 本校の「総合的な探究の時間」に関わる取組について

教育企画部部長の杉本教諭が、以下の４つの内容について報告を行った。

・第２学年「課題研究」に関わる取組
・第１学年　ＬＨＲ等を活用した取組
・地域との協働について
・成果と課題 及び展望

一つ目の第２学年「課題研究」に関わる取組に係る内容が発表のメインとなった。特定の教科の教員のみが担当するのではなく、いろんな教科の教員が担当する中で、教員がどういう態度で生徒と接していけばよいか、そして本校が「課題研究」において重視するものは何で、そのためにどのような１年間の授業計画を作ってきたかについて報告した。さらに、指導に使うプリントやワークシートを提示し、それらにどのような工夫がなされているかについて説明するとともに、生徒の研究ノートの一部を紹介し、担当教員とノートを通じてどのようなやりとりがなされ、それによりどのように生徒が変容していくかについて紹介した。担当教員の指導の目線あわせについてや、授業で使用するワークシート、生徒の研究ノートの指導方法などについてはこの研究会に参加された先生方からチャットを通じて多くの質問が寄せられ、本校が

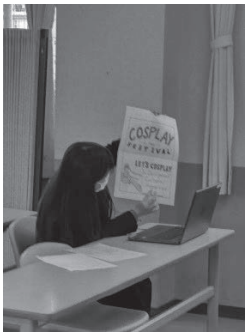
昨年度から取り組んできた「課題研究」について県内の先生方に知っていただくとともに意見交換ができるよい機会となった。

(2) 本校の「課題研究」及び「課題研究α」の取組について

本校教育企画部の木原教諭が発表を行った。こちらの発表では、生徒の「課題研究」及び「課題研究α」の授業の様子を事前にビデオ撮影したものを紹介しながら、教員が生徒にどう関わり、生徒がどのように自分の研究テーマを決めて具体的な研究課題を決定していくかについて報告した。また、この研修会の直前に実施したプレ中間発表会の様子も紹介し、課題研究に取り組んでいる生徒の変容の実際について視聴し、質問や意見をチャットでいただいた。本来であれば、参加いただいた各校の先生方に教室で生徒のプレ中間発表を見ていただき質疑応答にも参加いただいてその雰囲気を体感していただく予定であったが、生徒がだんだんと変容し、生き生きとした発表を行う様子については、オンラインであっても伝わったのではないかと考えている。

なお、発表後の研究協議では、オンライン参加した教員をいくつかのルームに分け、その中で今回の発表を通じての意見交換や各校の取組や課題の情報交換を行った。昨年度の学習指導研究会でもあったが、自分事としての視点を持ちながら課題を設定していくことの重要性と整理と分析の方法について協議がなされ、「総合的な探究の時間」は教員も生徒とともに学んでいく態度の必要性があることを感じた研究会となった。

④ 学習研究発表会（２月１日（月））

本年度の学習研究発表会は、秋以降に県教育委員会にも調整いただき、「ＷＷＬコンソーシアム構築支援事業」課題研究発表会との共同実施という形で実施されることになった。会場についても当初の予定の教育研究所から、より多くの生徒と教員が参加できる本校の文化創造館を利用し対面で行う計画を立てていた。しかし、年末以降、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大が急速に進み、同日にオンラインで実施することになった。生徒の発表もあらかじめ決められたルームと時間割り当てでそれぞれの学校から meet を使用し、初めてライブで行った。機器操作の不慣れ等により、若干予定通りいかない面もあったが、県内９校のべ１３の発表を行い、教員と生徒で合計１００名ほどが参加した。

発表を行った学校は、高取国際、法隆寺国際、奈良女子大附属、国際、奈良学園登美ヶ丘、奈良、青翔、聖心学園、そして本校の９校。発表後の参加生徒による意見交換会では、「１．発表で学んだことを共有」するとともに、「２．持続可能な社会をつくるために、わたしたちにできること」をテーマに意見交換を行った。最後に発表や意見交換会をオンラインで試聴いただいた奈良教育大学学長の加藤久雄氏から生徒向けに指導助言をいただいた。なお今回の研究発表会はＷＷＬの実行委員生徒が進行役を務め、意見交換会の司会も担当した。本年度も対面での実施は残念ながらかなわなかったが、オンラインという新しい形の学習環境をいかに効果的に普段の教育活動の中に活かしていくべきなのかを考えるよい機会となった。